

支部役員研修に参加して



市内の老人福祉施設を訪ねて
年間行事の一環「支部役員視察研修」で十一月二十四日に小川支部長他十四名で高齢者向居住施設「ケアハウスだんらん」と特養老人ホーム「ジョイフル各務原」を視察研修しました。

高齢者の生活支援施設と特別養護施設であり介助内容や設備内容の細部には違いがあるものの、両施設共に介助理念や諸設備は入所者の安全性と居住性が最優先になつて考へる様子を説明した。特に心強く思つたのは職員が入所者の立場になつて考へる様子を説明の節々で感じた事と費用的にも高嶺の花では無い事です。

十年ほど前に認知症(痴呆症)患者の施設を訪問した個人的記憶から認識ですが老人福祉施設と言えば暗いイメージでした。今回はその考え方を180度正す必要と将来に明るい灯火を見た思ひがします。

「何時までも元気で人の世話にはなりたくない」と何人も思つたのは職員が等にやつてきます。この様な施設が身近にある時代になつた事を喜ぶと共に、進む高齢化社会の対策には皆が日頃より社会福祉に関心を持ち寄りする気持ちが重要ではないでしょうか。

花もちづくりに挑戦

おじいちゃん、おばあちゃんに、教えてもらつて、花もち作りに挑戦。
おもちが手にくつついちゃつて大変だったけど、きれいにできて感激です。(こんなにきれいにできました。)



市民運動会

9月12日



No.30 3月15日

No.30 3月15日

地域と学校の交流 —蘇原第二小学校の活動から—

昔のくらしインタビュー会

三年主任 兼松陽子

十月二十日、三年生の子どもたちは、地域のおじいさんやおばあさんをお迎えして、国語科の学習「みんなこどもだつた」のインタビュー会を行いました。この学習は、おじいさんやおばあさんが子どもだつた頃のくらし(学校の様子・遊び・衣服・食べ物など)について、インタビューをして学ぶというものでした。



蘇原第二小学校の校区は、核家族で生活している家庭が多く、昔の暮らしについて、自分のおじいさんやおばあ遊び・衣服・食べ物など)について、インタビューをして学ぶというものでした。

さんから聞いている子はほとんどいませんでした。ですから、子どもたちは今回のおじいさんやおばあさんをお迎えして、国語科の学習「みんなこどもだつた」のインタビュー会を行いました。この学習は、おじいさんやおばあさんが子どもだつた頃のくらし(学校の様子・遊び・衣服・食べ物など)について、インタビューをして学ぶというものでした。

最初は少し緊張していた子どもたちも、すぐにうなづけ、いろいろなお話を目を輝かせながら聞いていました。

「給食はなく、いつもお弁当を持って行っていたんだよ。食べるものがなかつた。なもの葉も食べたな。」

「爆撃機が飛んで来て、本当に怖かった。防空壕に逃げたんだよ。」

教科書や教師の話だけでは伝わらないことも、体験していらっしゃる方から直接伺うことで、実感として子どもたちの心に深くしみ込んでいくことを感じました。実話を聞いた子どもたちの驚きや感動は、他では味わえないものになつたと思いました。

また、初めての出会いに緊張していた子どもたちですが、「保育所の頃お会いしたことがあったよ。」「家が近かつたよ。」など、地域の方ならではのつながりもあり、親しみをもつてお話をすれることができました。地域の方とのふれ合いの素晴らしさを感じました。子どもたちは、地域で守られ、育てていたのです。そこで、一月十七日に三十名ほどのお年寄りの方を招いてむかしのおもちゃ遊びを教えていただきました。十コーナーにわかれ、それぞれの遊び方を教えてもらひながら楽しく過ごしました。

当日は、こまめんこ、ヨーヨーなど十コーナーにわかれ、それぞれの遊び方を教えてもらひながら楽しく過ごしました。

子ども達は、昔ながらの遊び方をはじめて見たり、聞いたりして「なるほど。」「わかったよ。」と関心していました。ま

最後に、授業後に書いた児童の感想の一部を紹介させていただきます。

『最初はどうぞしていったのに、しゃべると楽しくなつてきて、とてもうれしかつたです。夢中になつてしまふとすぐに時間が過ぎてゆける時になつてしましました。涙が出そうになりました。最後に握手ができるうれしかつたです。わたしは絶対に忘れません。』



蘇原第二小学校 一年生 宝谷宏子
一年生では、生活科で季節の移り変わりを学び、体験を通して学習を進めています。一月は、冬の遊びからむかしの遊びに発展して伝統的な遊びに挑戦してみました。しかし、こども達だけでは、なかなかうまく遊ぶことができず、遊びの仕方もあいまいなものでした。そこで、一月十七日に三十名ほどのお年寄りの方を招いてむかしのおもちゃ遊びを教えていただきました。子ども達は、昔ながらの遊び方をはじめて見たり、聞いたりして「なるほど。」「わかったよ。」と関心していました。ま

た、一緒に遊んでもらつて「上手になつたよ。」「たのしかつたよ。」という声があちらこちらから聞くことができました。大喜びで1時間たっぷりと遊ぶことができ、満足げな様子でした。

普段からあまり、地域のお年寄りの方と交流が少ない子ども達にとって、とてもよい体験学習になつたと思います。また、たくさんの方が快く本校の活動にご協力ください、感謝しています。

子ども達も「ありがとうございます。」「お願いします。」と言う言葉が自然に口からでてきました。たくさんの方が快く本校の活動にご協力ください、感謝しています。

子ども達も「ありがとうございます。」「お願いします。」と言つたように思います。今後もこのようないい活動を通して、いろいろな人との触れ合いを大切にし、おもいやりのある子ども達になればいいなと願っています。

(3)

ご協力ありがとうございました

平成16年度 蘇原南部支部
社協会員募集実績

	会員数	会費額
一般会員	3,038件	1,519,000円
特別会員	172件	172,000円
合 計	3,210件	1,691,000円

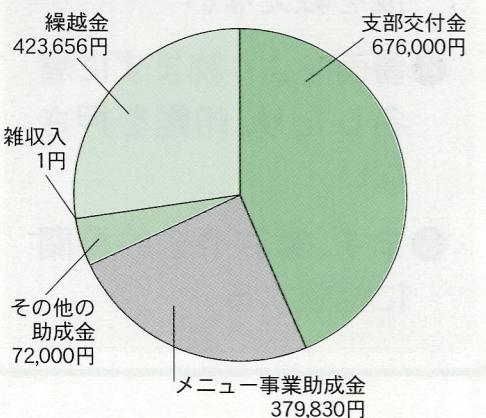
支部交付金 676,000円

皆様にご協力をいただきました上記会費額のうち約70%が支部社協活動財源になり、ボランタリーハウス事業や機関紙の発行、お年寄りを囲む会のほか地域の福祉事業に活用させていただいているです。

平成16年度 収入支出決算(中間)報告

17年1月31日現在

収入の部



支出の部

